

2012年4月15日発行
第563号(通算)
発行: 偶数月15日
会員購読料: 1月10円(年間60円)
一般購読は別途送料

環境と健康

発行者

HIROSHIMA ENVIRONMENT & HEALTH ASSOCIATION
財団法人 広島県環境保健協会

近光章
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL http://www.kanhokyo.or.jp/

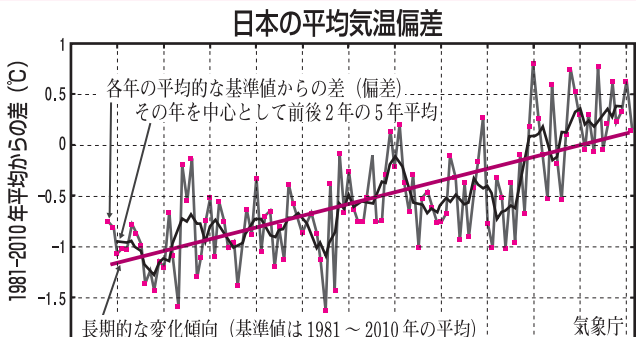
気候変動、特に「地球温暖化」という言葉は、多くの皆さんに知られるようになってきました。また、近年では気候変動によると思われる影響が日本でも現れているとの報告もあります。それでは、気温はどの程度上昇しているのでしょうか。これから6回にわたって広島県の気候がどのように変化しているのかを気象台が日ごろから観測して蓄積しているデータを用いてお話ししたいと思います。



①気象台の紹介と気候

第1回目となる今回は、気象台の紹介と気候についてです。気象台は全国各地にあります。広島県は広島市に広島地方気象台、呉市と福山市に無人の特別地域気象観測所(旧測候所)があります。気象台の業務は、皆さんもご存知のように気象の観測や天気予報および気象による災害のおそれがある時には警報・注意報等の防災気象情報を発表しています。また、地震が発生した時には各地の震度や地震が発生した場所・規模等を発表しています。これ以外にも地球温暖化を含む気候変動の監視も行っています。大気の状態のことを気象といいます。気象は、対象とする期間の長さによってその呼び名が異なります。天気予報で用

日本の気象の変化を監視 自然要因でない気温上昇観測



昇が観測されています。この原因として二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増加が考えられています。地球温暖化等の気候変動はこのように長期間にわたる変化です。次回からは広島県の気候の変化についてお話ししたいと思います。(広島地方気象台観測予報課 吉村 満)

いている「天気」は数時間から数日間の気象です。また、数日から数か月間の気象は「天候」といいます。今回お話する「気候」とは、数年から数十年間を平均した気象です。全国の気象台や特別地域気象観測所には、長期間にわたる品質の高い気温や降水量等の気象観測データがあります。このデータを用いて日本の気候がどのように変化しているか監視しています。左図は日本の年平均気温の経年変化です。この図から日本の年平均気温は年ごとや数年から数十年周期の変動を繰り返しながら長期的には百年あたり1.5度の割合で上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出していることが分かります。年ごとや数年から数十年の変動は地球の気候システムにもともと備わっている自然要因によるものです。しかし、長期的には自然要因では説明できない気温の上昇が観測されています。この原因として二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増加が考えられています。地球温暖化等の気候変動はこのように長期間にわたる変化です。次回からは広島県の気候の変化についてお話ししたいと思います。(広島地方気象台観測予報課 吉村 満)

地域活動支援センター事業概要

基礎研修は全市町へ講師派遣

地域活動支援センターは、環保協の公益事業部門として、公衆衛生推進協議会(以下、公衛協)を主体としたコミュニティにおける健康づくり、環境づくりの支援を行っている。環保協のミッション(目的・理念)である「総合的環境保健のま

ちづくりを実現するためのライフスタイルづくりと人財づくり」の達成に向けて、平成二十四年度事業を以下の三つの視点で推進する。

①リーダー養成事業の強化
公衆衛生推進協議会の実戦部隊である「公衆衛生推進委員」の力量形成に注力。

基礎研修や専門研修などのリーダー養成事業を強化して、実践活動の活性化を図る。特に、基礎研修では全市町公衛協へ講師を派遣し、研修の充実を図っていく。

②事務局機能の強化
平成二十一年度から取り組んでいる「市町公衛協事

務局活性化事業」で、公衛協の事務局を補佐する「機能リーダー(特命推進委員)」の育成・強化を図り、公衛協組織の活性化を目指す。また、支援期間を満了した公衛協への追加支援も行う。

③実践活動と脱温暖化のまちづくりの推進

全県共通事業の継続などを通じて、公衆衛生活動の拡充・拡大を図る。また、脱温暖化への取り組みを促進するため、各種団体と連携し、地域コミュニティを基盤とした「脱温暖化のまちづくり」を目指す。	
その他、平成二十年度から実施している「環境と健康のコミュニティ活動助成事業」では、継続事業を対象とした助成を追加し、新規に「環境啓発ポスター! 標語コンクール」で集まった作品を市民へ広報するための事後フォロー事業への助成を行う。また、「公衛協活動研究セミナー事業」でウォーキングをテーマとした研修を行い、「公衛協発ウォーキング事業」の活性化を図る。	
4月	27日(金)・・・公衛協事務担当者会議①(広島県公衆衛生会館)
6月	14日(木)・15日(金)・・・専門研修「基礎研修の開き方」(広島市内、環保協東部支所) 26日(火)・・・代表者会議定例会・募金委員会①(広島県公衆衛生会館)
7月	12日(木)～13日(金)・・・第51回環境保健夏季大学(グリーンピアせとうち) 24日(火)～25日(水)・・・専門研修「企画づくり」(安芸太田町内)
8月	22日(水)・23日(木)・・・代表者会議専門部会①(環境・健康・組織)
9月	21日(金)・・・公衛協事務担当者会議②(広島県公衆衛生会館) 27日(木)・28日(金)・・・専門研修「広報・ツールづくり」(東広島市内、環保協東部支所)
11月	1日(木)・・・第53回広島県公衆衛生大会(福山市・福山ビッグロース) 27日(火)・28日(水)・・・代表者会議専門部会②(環境・健康・組織)
1月	29日(火)・・・代表者会議定例会・募金委員会②(広島県公衆衛生会館)
3月	18日(月)・・・ブロック会議(環保協東部支所) 19日(火)・・・ブロック会議(三次市文化会館) 21日(木)・・・ブロック会議(広島県公衆衛生会館)
※その他の事業、正式な実施日開催場所については4月27日(金)事務担当者会議にて発表します。	

きんせんか 琴線歌

TV番組「ラブ・グリーンスタイル」に携わって三年余り。昨年の震災以降、環境に対する人々の意識は一変したと感じます。「環境は意識して当たり前」となり、私は、これまで各地のエコを実践する人々(スタッフの間ではエコラーと呼びます)と接してきましたが、取材を通じて感じていることは、環境を守るため一生懸命に取り組んでいる人ほど、命と真摯に向き合っていることです。▼「環境を守ること」＝自分を含む生き物の生態系を維持させたい。つまり、それは生きとし生ける命を愛おしむ思いが底流にあります。そして震災以降、「環境を意識して当たり前」と世の意識が変わったのもこの論理からすれば納得いくのです。究極は「命ゆえの環境」なのです。RCCもこれまで環境を守るさまで

環境是人也

が県民の意識調査で「環境問題に積極的に取り組む放送局」と評価されているのは、こうした地道な活動があったからこそだと思います。「環境 是人也」。結局、環境は人を通じてしか意識されず、また実践にも繋がらない。私はこの思いを胸に日々広島のエコラーを取材しています。

(株式会社中国放送
ラブ・グリーン推進室 檜高正樹)

環境と保健の未来をめざして

財団法人 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表]
FAX:082(293)1520

かんぽきょう

検索

